

R5年度厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
研究課題名：アプリを併用した就労アセスメントの専門性向上のための研修の開発についての研究（23GC1009）

分担研究報告書

アセスメントスキルの必要性や実施状況に関するアンケート調査研究

研究分担者 白井千恵 順天堂大学精神医学教室

研究協力者 和田裕雄 順天堂大学公衆衛生学教室

研究協力者 石村源生 情報経営イノベーション専門職大学

研究代表者 丸谷美紀 国立保健医療科学院

研究要旨

本研究の目的は、障害者の就労アセスメントの専門性向上を図るため、熟練者の就労アセスメントスキルを解明し、視覚教材を用いた研修カリキュラムと就労アセスメントアプリを開発することである。障害者の就労アセスメントには、本人の能力と支援環境の評価の不足や、身体面・心理面の状態の変動に対応する必要性がある。既存のアセスメントツールがこの課題に対応できていないことから、補足する新たなツールの開発が必要である。本研究では、熟練者のスキルを分析し、視覚教材を活用した研修と就労アセスメントアプリの開発を通じて、この課題に対処する。

A. 研究目的

本研究の主要目的は以下のとおりである。

- 1) 熟練者の就労アセスメントスキルを明らかにし、その質的特徴を抽出する。
 - 2) 就労アセスメントにおける障害者の本人の能力と支援環境の評価の不足や身体面・心理面の変動への対応策を明らかにする。
 - 3) 既存の就労アセスメントツールの不足を補うための就労アセスメントアプリを開発する。
 - 4) 熟練者のスキル向上を支援する研修カリキュラムを設計し、視覚教材を開発する。
- 本研究は、障害者の就労支援における専門性向上と、より効果的なアセスメントツールの開発を通じて、彼らの就労選択支援を促進することを目指している。

R5年度は主に1)、2)について研究を行った。具体的には問紙表調査を実施し、傾向を見るため、2つの目的でクロス集計を行

った。

【目的1】 本調査で「各アセスメントスキルの必要性や実施状況について」および「前述のアセスメントスキルのうち、スキルアップが必要と思う項目」については、経験年数も影響を及ぼす可能性があると考えられた。そこで、本可能性につき検証を行った。

【目的2】 地域のリソース有効活用についてさらに分析を行った。

以下、目的ごとに方法、結果、考察を述べる

【目的1】経験年数の影響

B. 研究方法

(1) 対象 文末資料の通り。

(2) 測定

本調査で「各アセスメントスキルの必要性や実施状況について」の回答は、以下に示す0～3で得たが、0と1を「実施無」3と

4を「実施あり」と判断した。

0.あまり必要ない

1.実施していないが必要だと気づいた

2.対象者の状況により実施している

3.基本的に実施している

さらに、「前述のアセスメントスキルのうち、スキルアップが必要と思う項目」についての回答で、1. はい、0いいえの2群で検討を行った。

さらに、経験年数は、10年未満と10年以上の2群に分類した。

(3) 解析

「各アセスメントスキルの必要性や実施

ラベル 質問文

2-1A1-1	A1（ミクロレベル）.本人の見立て：本人が自分らしく生きられる仕事を本人と探る
2-1A1-7	A1（ミクロレベル）.本人の見立て：就労定着を見据えて本人の就業のスキルを見立てる
2-1A2-2	A2（ミクロレベル）.家族の状態の見立て：本人の年齢や症状の特性に応じて親の関与の程度を把握する
2-1A2-3	A2（ミクロレベル）.家族の状態の見立て：本人の症状の要因や対処方法に関する家族の経験知を把握する
2-1B2-2	B2（メゾレベル）.就労先の状態の見立て：就労先の個々の障害の特徴への理解を見立てる
2-1B2-4	B2（メゾレベル）.就労先の状態の見立て：就労先が求めるスキルや人物像を見立てる
2-1C1-3	C1（マクロレベル）.地域・自治体の状態の見立て：地域の福祉サービスを含む就労への考え方の傾向を把握する
2-1C1-5	C1（マクロレベル）.地域・自治体の状態の見立て：地域の福祉サービス等の社会資源を把握する
2-1C1-6	C1（マクロレベル）.地域・自治体の状態の見立て：自治体の制度の運用の傾向を把握する
2-2D1-2	D1（ミクロ内）.本人と家族のかみ合せの見立て：家族との関係が症状に影響している場合に他機関の支援の必要性を見立てる
2-3-4	見立ての手段：どのように：自作/既製のツールを参考にする
3-1B1-2	B1（メゾレベル）.支援者自身の見立て

状況について」にかかる質問（計57問）および「前述のアセスメントスキルのうち、スキルアップが必要と思う項目」にかかる質問（計57問）と経験年数（10年未満vs.10年以上）との関連の有無につき、カイ2乗検定を行い、このうち、統計的に優位な関連が認められた項目につき、多重ロジスティック回帰分析を行った。所属機関、保持資格、経験した障害で調整を行った。

C. 研究結果

カイ2乗解析の結果、以下の12項目で経験年数との関連が認められた。

各項目の「アセスメントの実施」ありの経験年数10年以上の10年未満に対するオッズ比（SEM）

ラベル	N	10 年未満		10 年以上		10 年未満		10 年以上	
		調整なし				調整あり [#]			
			オッズ比	(SEM)	N		オッズ比	(SEM)	
2-1A1-1	699	ref	2.175*	(0.862)	603	ref	2.812**	(1.309)	
2-1A1-7	691	ref	2.496**	(1.100)	596	ref	2.204	(1.149)	
2-1A2-2	694	ref	2.858***	(1.102)	600	ref	2.587**	(1.089)	
2-1A2-3	690	ref	1.996***	(0.511)	609	ref	1.717*	(0.481)	
2-1B2-2	687	ref	2.375***	(0.759)	592	ref	2.744***	(0.988)	
2-1B2-4	686	ref	2.425**	(0.866)	593	ref	2.143**	(0.809)	
2-1C1-3	674	ref	1.456**	(0.272)	586	ref	1.411*	(0.293)	
2-1C1-5	680	ref	2.207**	(0.691)	590	ref	2.222**	(0.772)	
2-1C1-6	679	ref	1.834***	(0.375)	604	ref	1.854***	(0.421)	
2-2D1-2	689	ref	2.491**	(1.031)	597	ref	1.854	(0.840)	
2-3-4	667	ref	1.484**	(0.293)	597	ref	1.633**	(0.350)	
3-1B1-2	704	ref	1.439**	(0.231)	617	ref	1.559**	(0.277)	

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

[#] 所属機関、保持資格、経験した障害で調整を行った。

全項目で、10年以上の経験で「アセスメントの実施あり」が増加しており、調整後も統計学的に有意な関連を示し、統計学的に頑強であると考えられた。

D. 考察

本結果より、経験年数が長いと、ミクロレベルでの「本人が自分らしく生きられる仕事を本人と探る」「就労定着を見据えて本人の就業のスキルを見立てる」「本人の年齢や症状の特性に応じて親の関与の程度を把握する」などを実施するようになることが明らかとなった。障害者本人に寄り添った業務を行っていると考えられる。さらに、

「本人の症状の要因や対処方法に関する家族の経験知を把握する」「家族との関係が症

状に影響している場合に他機関の支援の必要性を見立てる」など家族の役割と家族のサポート体制構築への理解も深まると考えられた。

また、メゾレベルでは、「就労先の個々の障害の特徴への理解を見立てる」「就労先の状態の見立て：就労先が求めるスキルや人物像を見立てる」、マクロレベルでは、「地域の福祉サービスを含む就労への考え方の傾向を把握する」「地域の福祉サービス等の社会資源を把握する」「自治体の制度の運用の傾向を把握する」などの「就業」に関する理解、「地域のリソースに関する理解」も深まると考えられた。

その一方で、「自作/既製のツールを参考にする」という客観的判断を志向する人が増

加し、さらに、「支援者自身の見立て」について「スキルアップが必要」と考える人が増加し、謙虚な姿勢もうかがわれた。

E. 結論

経験年数が長くなると、障害者本人に寄り添った内容を把握できるようになり、さらに、就業についての関心、さらには、地域のリソースに関する知識も蓄積されると考えられた。その一方で、客観的な判断を志向し、また、スキルアップ向上などを必要と考える謙虚な姿勢も観察された。

【目的2】地域のリソース有効活用について

B. 研究方法

熟練した支援者へのインタビューから就労アセスメントスキルの質問項目を作成した。(1) 対象

配布対象：

就労移行支援事業所、障害者就業・生活支援センター、地域障害者職業センター(文末資料参照)

(2) 方法

使用した質問票及び単純集計は資料通り。

特に、地域のリソース有効活用については、以下の関連する質問に、

2-1C1-1[地域（ネット上を含む）のインフォーマルな支援を把握する]

2-1C1-2[地域の障害や多様性の受け入れ

具合を把握する]

2-1C1-3[地域の福祉サービスを含む就労への考え方の傾向を把握する]

2-1C1-4[地域の就労先の量や就労条件の傾向を把握する]

2-1C1-5[地域の福祉サービス等の社会資源を把握する]

2-1C1-6[自治体の制度の運用の傾向を把握する]

に対して、

0. あまり必要ない

1. 実施していないが必要だと気づいた
2. 対象者の状況により実施している
3. 基本的に実施している

のいずれかで回答するが、「3. 基本的に実施している」と一つでも回答した場合を「地域のリソースを有効活用している」とし、それ以外の場合を「地域のリソースを有効活用していない」とした。

(3) 解析

各質問に対する回答の分布を明らかにした。さらに、地域のリソース有効活用について、クロス集計を実施し、さらに、多変量ロジスティック回帰分析を実施した。所属機関、経験年数(0~10年未満[基準]、10~20年未満、20~年の3群で比較)、保持資格、経験した障害について調整を行った。

統計解析には、STATA-MP ver 16.0 (Stata Corp. LLC, College station, TX, USA)を使用した。統計的有意スン純は、 $p < 0.05$ と

した。

(倫理面への配慮) 国立保健医療科学院倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

(1) 回答率

質問票は、(就労移行支援事業所3515件(3199件中あて先不明78)、障害者就業・生活支援センター337、地域障害者職業センター57)の計3549件に配布し、うち718件から回答を得た(回答率20.4%)。

(2) クロス集計

表1. に単変量ロジスティック回帰分析の結果を示す。就労移行支援事業所を基準として、障害者就業・生活支援センターのオッズ比(標準誤差)は、2.099(0.577)と有意に高値であった($P=.02$)。地域障害者職業センターは、5.918(6.164)と高値である傾向が見られた($p=0.09$)。統計的有意水準に達しなかったのは、地域障害者職業センターに所属する回答が少なかったためと思われる($n=14$)。

次に経験年数では、10年未満の経験年数の参加者を基準として、10年以上20年未満の地域のリソース有効活用していることへのオッズ比(標準誤差)は、1.457(0.265)で有意に高値であった($p=0.04$)。しかし、20年以上の経験者のオッズ比は1.752(0.601)と高値である傾向が見られた($p=0.10$)が、有意水準に達しなかった。この原因はやはり、20年以

上の経験を有する回答者が少なかった

($n=53$)ためと考えられた。

さらに、各資格の有無について、地域リソースの有効活用について検討したところ、職場適応援助者のみが、資格なしに対して同「あり」のオッズ比(標準誤差)が、1.702(0.371)で有意に高値であった($p=0.02$)。他の資格については、その有無で地域リソースの有効活用に関する差を認めなかつた。

経験した障害については、精神障害者の経験「なし」に対して、同「あり」のオッズ比(標準誤差)が、1.773(0.388)で有意に高値であった($p=0.01$)。他の経験については、その有無で地域リソースの有効活用に関する差を認めなかつた。

次に、表2. に多変量ロジスティック回帰分析の結果を示す。保持資格と経験した障害については関連があると考えられたため、どちらか一方で調整した。その結果、障害者就業・生活支援センターのオッズ比(標準誤差)は、経験年数および保持資格で調整した場合は、1.957(0.552)と有意に高値で($P=.02$)、「経験した障害」で調整した場合は、オッズ比(標準誤差)は1.696(0.492)と有意に高値の傾向を示した($P=.07$)。経験年数については、経験した障害で調整すると、10年以上20年未満の地域のリソース有効活用していることへのオッズ比(標準誤差)は、1.458(0.290)で高値である傾向を認めた($p=0.06$)。一

方、保持資格で調整した場合は、関連は認められなかった。保持資格は、所属機関、経験年数で調整した結果、地域のリソース有効活用と有意な関連を示す資格はなかった。一方、経験した障害では、精神障害者の経験「なし」に対して、同「あり」のオッズ比（標準誤差）が、 $1.840(0.412)$ で有意に高値であり（ $p=0.01$ ）、本関連の頑強性が示された。

D. 考察

以上の結果より、「障害者就業・生活支援センターへの所属」、経験 10 年以上、精神障害者の経験が「地域のリソース有効活用」と有意に関連し、その関連は比較的頑強であると考えられた。

職場適応応援者が単変量ロジスティック回帰分析で関連が認められ、多変量ロジスティック回帰分析で関連が認められなかつた理由として、同様に経験年数の関連が焼失したことから、両者がメディエーターとして機能している可能性が考えられた。実際、経験年数が 10 年未満では同資格の保持者は 14%程度であるが、10 年以上で同資格の保持者は 32%となり増加していることが明らかとなった。

以上より、「障害者就業・生活支援センターへの所属」している経験 10 年以上で、精神障害者の経験を有する人が「地域のリソース有効活用」していると考えられた。

本結果の限界が複数ある。まず、本研究は、

横断研究であるため、因果関係については議論できない。また、ロジスティック回帰分析を行ったが、「地域のリソース有効活用」しているのが、71%と極めて多いため、やや不正確である可能性がある。

E. 結論

本年度の研究結果を踏まえて、来年度は既存の就労アセスメントツールの不足を補うための就労アセスメントアプリを実装し、障害者が職場にて積極的に仕事に参加し、生産的なメンバーとして社会に貢献することへの支援につなげたい。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Nagai Y, Kirino E, Tanaka S, Usui C, Inami R, Inoue R, Hattori A, Uchida W, Kamagata K, Aoki S. Functional connectivity in autism spectrum disorder evaluated using rs-fMRI and DKI. *Cereb Cortex*. 2023; 27: bhad451.
2. Hatta K, Usui C, Nakamura H. Acceptability of transdermal antipsychotic patches by patients who refuse oral medication and their effectiveness in preventing recurrence of delirium: a retrospective observational study. *Int Clin Psychopharmacol*. 2023; 1;38(1):23-27.
3. Zhua Q, Wada H, Ueda Y, Onukia K, Miyakawa M, Sato S, Kameda Y, Matsumoto F, Inoshita A, Nakano H,

- Tanigawa T. Association between habitual snoring and vigilant attention in elementary school children. *Sleep Med.* 2024, in press
4. Wada H, Nakano H, Sakurai S, Tangiawa T. Self-reported Sleep Tendency Poorly Predicts the Presence of Obstructive Sleep Apnea in Commercial Truck Drivers. *Sleep Med.* 2024, in press
5. Koike S, Wada H, Ohde S, Ide H, Taneda K, Tanigawa T. Working hours of full-time hospital physicians in Japan: a cross-sectional nationwide survey. *BMC Public Health.* 2024; 24(1): 164. doi: 10.1186/s12889-023-17531-5.
6. Kitazawa T, Wada H, Onuki K, Furuya R, Miyakawa M, Zhu Q, Ueda Y, Sato S, Kameda Y, Nakano H, Gozal D, Tanigawa T. Snoring, obstructive sleep apnea and upper respiratory tract infection in elementary school children in Japan. *Sleep Breath.* 2023, in press
7. Kimura T, Kawano H, Muto S, Muramoto N, Takano T, Lu Y, Eguchi H, Wada H, Okazaki Y, Ide H, Horie S. PKD1 mutation is a biomarker for autosomal dominant polycystic kidney disease. *Biomolecules* 2023; 13(7): 1020. doi: 10.3390/biom13071020.
8. Nishizaki Y, Kuroki H, Ishii S, Ohtsu S, Watanabe C, Nishizawa H, Nagao M, Nojima M, Watanabe R, Sato D, Sato K, Kawata Y, Wada H, Toyoda G, Ohbayashi K.. Determining Optimal Intervals for In-Person Visits During Video-Based Telemedicine Among Patients With Hypertension: Cluster Randomized Controlled Trial. *JMIR Cardio.* 2023; 7: e45230.
9. Zhu Q, Wada H, Onuki K, Kitazawa T, Furuya R, Miyakawa M, Sato S, Yonemoto N, Ueda Y, Nakano H, Gozal D, Tanigawa T. Validity and reliability of the Japanese version of the severity hierarchy score for pediatric obstructive sleep apnea screening. *Sleep Med* 2023; 101: 357-364.
10. Matsuo R, Tanigawa T, Oshima A, Tomooka K, Ikeda A, Wada H, Maruyama K, Saito I. Decreased psychomotor vigilance is a risk factor for motor vehicle crashes irrespective of subjective daytime sleepiness: the Toon Health Study. *J Clin Sleep Med.* 2023; 19(2): 319-325.
2. 学会発表

1. シンポジウム 慢性疼痛 白井 千恵 痛覚変調性疼痛 119回日本精神神経学会学術集会 2023年6月22-24 横浜
2. シンポジウム 痛覚変調性疼痛としての線維筋痛症 最近の知見 up to date
3. 白井千恵 痛覚変調性疼痛の概要及び線維筋痛症の脳機能画像 第53回日本慢性疼痛学会 2024年2月23-24 足利
4. Takahisa Ogawa, Chie Usui The pain-note smartphone app as a tool to measure the relationship between step count and pain levels THE 20th INTERNATIONAL CONGRESS OF THE PACIFIC RIM COLLEGE OF PSYCHIATRISTS PRCP 2023 13th – 15th OCT 2023 KUALA LUMPUR
5. Chie Usui, Kotaro Hatta, Takahisa Ogawa. Association Between Step Count Measured With a Smartphone App (Pain-Note) and Pain Level in Patients With Chronic Pain: Observational StudyThe 6th International Congress on Controversies in Fibromyalgia 7-8 March 2024 | Brussels, Belgium
6. Marutani M , Usui C , Kawajiri H ,Takai Y, Kawaguchi T Support a reason for living of persons with disabilities using the mobile phone application. 3rd Edition of International Public Health Conference March 21-23, 2024,Singapore
7. Nomura N, Ueki J, Sano E, Ikeda M, Harada N, Wada H. Evaluation of current self-management strategies in iOS and Android mobile applications on patients with asthma. Abstract presented in European Respiratory Society 2023 in Milan, 10 September 2023.
8. Hagiwara S, Wada H. Effect of five years heated tobacco products use on health-Comparison with smoking cessation. Abstract presented in European Respiratory Society 2023 in Milan, 10 September 2023.
9. 和田裕雄. 介護者調査・事業者調査による在宅呼吸ケアの現状と課題. J Jpn Soc respir Care Rehab 2023; 33: 92s. 第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (2023年12月1日、仙台).
10. 和田裕雄. 指導医講習会:社会医学系専門医制度の評価と発展に関する事業 2022-2023. 第82回日本公衆衛生学会総会 (2023年10月31日、つくば市).

11. 和田裕雄. 厚生労働科学研究より. シンポジウム 5 VUCA 時代に対応可能な医師の確保・育成: 公衆衛生学を見据えた医学教育からキャリアへの展開. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 (2023 年 10 月 31 日、つくば市)

12. 和田裕雄、谷川武. 睡眠不足ならびに サーカディアンリズムの乱れが肥満に及ぼす影響. 産業肥満研究会, 第 96 回日本産業衛生学会 (2023 年 5 月 11 日、宇都宮市)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

表 1 単変量ロジスティック解析による地域のリソース把握に対する各変数オッズ比 (標準誤差)

	OR	SE	pvalue	OR	SE	pvalue	OR	SE	pvalue	OR	SE	pvalue
所属機関												
就労移行支援事業所	ref											
障害者就業・生活支援センター	2.099	0.577	0.01									
地域障害者職業センター	5.918	6.164	0.09									
経験年数												
≥10 ~ <20	ref											
≥20	1.457	0.265	0.04									
≥20	1.752	0.601	0.1									
資格												
1.社会福祉士				1.208	0.255	0.37						
2.精神保健福祉士				1.174	0.278	0.5						
3.職場適応援助者 ('ヨ'ヨ'コ')				1.702	0.371	0.02						
4.産業カウンセラー				1.479	0.977	0.55						
5.キャリアコンサルタント				1.714	0.874	0.29						
6.作業療法士				1.171	0.704	0.79						
7.公認心理士/ 臨床心理士				1.328	0.554	0.5						
8.障害者職業カウンセラー				1.857	1.065	0.28						
経験した障碍				0.939	0.124	0.48						
身体障害者				1.05	0.204	0.8						
知的障害者				0.935	0.237	0.79						
精神障害者				1.773	0.388	0.01						
免達障害者				1.239	0.168	0.12						
高次脳機能障害者				1.202	0.173	0.2						
難病者				0.729	0.4	0.57						

表 2 多変量ロジスティック解析による地域のリソース把握に対する各変数オッズ比 (標準誤差)

	odds ratio	SE	pvalue	odds ratio	SE	pvalue
所属機関						
1:就労移行支援事業所	ref			ref		
2:障害者就業・生活支援センター	1.957	0.552	0.02	1.696	0.491	0.07
3:地域障害者職業センター	10.542	13.414	0.06	3.627	3.851	0.23
経験年数						
≥10 ~ <20	ref			ref		
≥10 ~ <20	1.3	0.248	0.17	1.458	0.29	0.06
≥20	1.42	0.526	0.34	1.549	0.603	0.26
資格						
1:社会福祉士	1.11	0.243	0.63			
2:精神保健福祉士	1.231	0.3	0.39			
3:職場適応援助者 ('ヨ'ヨ'コ')	1.444	0.326	0.1			
4:産業カウンセラー	1.433	0.976	0.6			
5:キャリアコンサルタント	1.902	0.977	0.21			
6:作業療法士	1.217	0.738	0.75			
7:公認心理士/臨床心理士	1.206	0.51	0.66			
8:障害者職業カウンセラー	0.508	0.395	0.38			
経験した障碍						
身体障害者				0.923	0.126	0.56
知的障害者				0.985	0.2	0.94
精神障害者				0.925	0.241	0.76
免達障害者				1.84	0.412	0.01
高次脳機能障害者				1.204	0.166	0.18
難病者				1.185	0.173	0.24
				0.62	0.351	0.4

表 3 経験年数と職場適応援助者の資格の有無

資格	経験年数			合計	
	0 to <10	10 to <20	≥20		
なし	N	344	168	38	550
なし	%	85.6	68	67.9	78
あり	N	58	79	18	155
あり	%	14.4	32	32.1	22
合計		402	247	56	705

〈資料 単純集計〉

1) 調査期間：令和6年1月～2月

2) 回答者

回答者の所属は就労移行支援事業所が最多で、経験年数は平均9.3年、社会福祉に関する視覚を保有する者が4割強であった。

回答者が関わった障害種別は精神障害者、発達障害者、知的障害者が日常的に多く、難病や高次脳機能障害は「全くない」の割合が多くかった。

1) 所属先の機関	実数	割合
1:就労移行支援事業所	585	81.5%
2:障害者就業・生活支援センター	101	14.1%
3:地域障害者職業センター	14	1.9%
無回答	18	2.5%
N(計)	718	

2) 経験年数(通算)	実数
	N
平均	9.3
最大	44.0
最小	0.0
標準偏差	6.6

3) 保有している資格等(複数回答)	実数	割合
	N	718
1:社会福祉士	178	24.8%
2:精神保健福祉士	137	19.1%
3:職場適応援助者(ジョブコーチ)	157	21.9%
4:産業カウンセラー	16	2.2%
5:キャリアコンサルタント	26	3.6%
6:作業療法士	14	1.9%
7:公認心理士/臨床心理士	37	5.2%
8:障害者職業カウンセラー	20	2.8%

4) 過去1年間に関わった障害種類別の頻度

①身体障害者	実数	割合
0:全くない	124	17.3%
1:日常的にあり	261	36.4%
2:頻度は多くないがある	306	42.6%
無回答	27	3.8%
N(計)	718	

②知的障害者

0:全くない	19	2.6%
1:日常的にあり	587	81.8%
2:頻度は多くないがある	99	13.8%
無回答	13	1.8%

	N(計)	718
③精神障害者		
0:全くない	12	1.7%
1:日常的にあり	624	86.9%
2:頻度は多くないがある	69	9.6%
無回答	13	1.8%
N(計)	718	

	N(計)	718
④発達障害者		
0:全くない	18	2.5%
1:日常的にあり	615	85.7%
2:頻度は多くないがある	63	8.8%
無回答	22	3.1%
N(計)	718	

	N(計)	718
⑤高次脳機能障害者		
0:全くない	195	27.2%
1:日常的にあり	167	23.3%
2:頻度は多くないがある	310	43.2%
無回答	46	6.4%
N(計)	718	

	N(計)	718
⑥難病者		
0:全くない	278	38.7%
1:日常的にあり	101	14.1%
2:頻度は多くないがある	281	39.1%
無回答	58	8.1%
N(計)	718	

	N(計)	718
5) 所属機関で利用しているアセスメントツールの頻度		
①就労支援のためのチェックリスト	実数	割合
0:基本的に利用しない	158	22.0%
1:対象者の状況により利用	291	40.5%
2:基本的に利用する	241	33.6%
無回答	28	3.9%
N(計)	718	

	N(計)	718
②就労支援のためのアセスメントシート		
0:基本的に利用しない	139	19.4%
1:対象者の状況により利用	211	29.4%
2:基本的に利用する	340	47.4%
無回答	28	3.9%
N(計)	718	

	N(計)	718
③ワークサンプル		
0:基本的に利用しない	389	54.2%
1:対象者の状況により利用	184	25.6%
2:基本的に利用する	91	12.7%
無回答	54	7.5%
N(計)	718	

	N(計)	718
④K-STEP		
0:基本的に利用しない	535	74.5%
1:対象者の状況により利用	87	12.1%
2:基本的に利用する	31	4.3%
無回答	65	9.1%
N(計)	718	

3) 各アセスメントスキルの必要性や実施状況について

3) -1 各レベルの見立てについて

[A1. 本人の見立て]

「1. 本人が自分らしく生きられる仕事を本人と探る」 「2. 本人の興味関心に即した仕事を本人と探る」など、本人を中心としたアセスメント的回答が多かった。自由回答では、質問項目に加えて「体力や体調に関する確認」が得られた。

1.本人が自分らしく生きられる仕事を本人と探る

	実数	割合
0.あまり必要ない	5	0.7%
1.実施していないが必要だと気づいた	30	4.2%
2.対象者の状況により実施している	168	23.4%
3.基本的に実施している	503	70.1%
無回答	12	1.7%
N(計)	718	

2.本人の興味関心に即した仕事を本人と探る

	実数	割合
0.あまり必要ない	3	0.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	20	2.8%
2.対象者の状況により実施している	168	23.4%
3.基本的に実施している	516	71.9%
無回答	11	1.5%
N(計)	718	

3.働く意味や喜びを本人と探る

	実数	割合
0.あまり必要ない	6	0.8%
1.実施していないが必要だと気づいた	20	2.8%
2.対象者の状況により実施している	225	31.3%
3.基本的に実施している	454	63.2%
無回答	13	1.8%
N(計)	718	

4.人生や就労でつまずいた要因を本人と検討する

	実数	割合
0.あまり必要ない	7	1.0%
1.実施していないが必要だと気づいた	26	3.6%
2.対象者の状況により実施している	254	35.4%
3.基本的に実施している	416	57.9%
無回答	15	2.1%
N(計)	718	

5.本人の生命に関わる経験を確実に把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	53	7.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	84	11.7%
2.対象者の状況により実施している	285	39.7%
3.基本的に実施している	269	37.5%
無回答	27	3.8%

N(計) 718

6.本人の生活スキルの習熟度を見極める

	実数	割合
0.あまり必要ない	5	0.7%
1.実施していないが必要だと気づいた	22	3.1%
2.対象者の状況により実施している	284	39.6%
3.基本的に実施している	395	55.0%
無回答	12	1.7%
N(計)	718	

7.就労定着を見据えて本人の就業のスキルを見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	7	1.0%
1.実施していないが必要だと気づいた	22	3.1%
2.対象者の状況により実施している	173	24.1%
3.基本的に実施している	496	69.1%
無回答	20	2.8%
N(計)	718	

8.経過の中で本人の変化と要因を本人と探る

	実数	割合
0.あまり必要ない	7	1.0%
1.実施していないが必要だと気づいた	28	3.9%
2.対象者の状況により実施している	210	29.2%
3.基本的に実施している	455	63.4%
無回答	18	2.5%
N(計)	718	

9.本人が自己理解のどの段階にいるか本人と探る

	実数	割合
0.あまり必要ない	3	0.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	35	4.9%
2.対象者の状況により実施している	252	35.1%
3.基本的に実施している	416	57.9%
無回答	12	1.7%
N(計)	718	

10.本人が心身の波を察知し自己や環境を調整するどの段階にいるか本人と探る

	実数	割合
0.あまり必要ない	7	1.0%
1.実施していないが必要だと気づいた	41	5.7%
2.対象者の状況により実施している	293	40.8%
3.基本的に実施している	361	50.3%
無回答	16	2.2%
N(計)	718	

[A2. 家族の状態の見立て]

親の関与の程度や家族員一人ひとりを見立てる回答が多くかった。

自由回答では、質問項目に加える内容は得られなかった。

1.家族員個々の障害の受け止め方を見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	15	2.1%
1.実施していないが必要だと気づいた	67	9.3%
2.対象者の状況により実施している	438	61.0%
3.基本的に実施している	182	25.3%
無回答	16	2.2%
N(計)	718	

2.本人の年齢や症状の特性に応じて親の関与の程度を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	10	1.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	31	4.3%
2.対象者の状況により実施している	404	56.3%
3.基本的に実施している	256	35.7%
無回答	17	2.4%
N(計)	718	

3.本人の症状の要因や対処方法に関する家族の経験知を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	18	2.5%
1.実施していないが必要だと気づいた	66	9.2%
2.対象者の状況により実施している	449	62.5%
3.基本的に実施している	164	22.8%
無回答	21	2.9%
N(計)	718	

[B1. 支援者自身の見立て]

全項目で 6 割以上は基本的に内省を実施していた。

自由回答では、質問項目に加えて「ミーティングや支援会議で自己の意見とすり合わせる」が得られた。

1.本人が支援者と安心して接しているか自己の対応方法を吟味する

	実数	割合
0.あまり必要ない	4	0.6%
1.実施していないが必要だと気づいた	39	5.4%
2.対象者の状況により実施している	175	24.4%
3.基本的に実施している	483	67.3%
無回答	17	2.4%
N(計)	718	

2.将来を見通して本人の可能性を引き出そうとしているか自己吟味する

	実数	割合
0.あまり必要ない	3	0.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	42	5.8%
2.対象者の状況により実施している	196	27.3%
3.基本的に実施している	459	63.9%

無回答	18	2.5%
N(計)	718	

3.本人の自己決定と実行を妨げていないか自己の支援を振り返る

	実数	割合
0.あまり必要ない	2	0.3%
1.実施していないが必要だと気づいた	48	6.7%
2.対象者の状況により実施している	149	20.8%
3.基本的に実施している	501	69.8%
無回答	18	2.5%
N(計)	718	

4.ツールなど客観的な指標と本人の主觀を突合して総体的に見立てようとしているか点検する

	実数	割合
0.あまり必要ない	19	2.6%
1.実施していないが必要だと気づいた	115	16.0%
2.対象者の状況により実施している	216	30.1%
3.基本的に実施している	348	48.5%
無回答	20	2.8%
N(計)	718	

5.関係者の意見も併せて多方面から本人を理解しようとしているか自己吟味する

	実数	割合
0.あまり必要ない	3	0.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	44	6.1%
2.対象者の状況により実施している	201	28.0%
3.基本的に実施している	452	63.0%
無回答	18	2.5%
N(計)	718	

6.支援者自身の経験や価値観が支援の妨げとなっていないか俯瞰する

	実数	割合
0.あまり必要ない	8	1.1%
1.実施していないが必要だと気づいた	87	12.1%
2.対象者の状況により実施している	163	22.7%
3.基本的に実施している	435	60.6%
無回答	25	3.5%
N(計)	718	

[B2. 就労先の状態の見立て]

具体的に求められるスキルや物理的環境に関しては実施している割合が多いが、D&I の理念や人的環境の変化の見立ての実施の割合は少なかった。

自由回答では、質問項目に加える内容は得られなかつた。

1.就労先が障害者雇用を D&I による経営の課題として考えているか

	実数	割合
0.あまり必要ない	58	8.1%
1.実施していないが必要だと気づいた	159	22.1%
2.対象者の状況により実施している	250	34.8%
3.基本的に実施している	180	25.1%
無回答	71	9.9%
N(計)	718	

2.就労先の個々の障害の特徴への理解を見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	8	1.1%
1.実施していないが必要だと気づいた	47	6.5%
2.対象者の状況により実施している	211	29.4%
3.基本的に実施している	428	59.6%
無回答	24	3.3%
N(計)	718	

3.就労先の人事異動の周期など人的環境の変化の頻度を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	33	4.6%
1.実施していないが必要だと気づいた	116	16.2%
2.対象者の状況により実施している	260	36.2%
3.基本的に実施している	281	39.1%
無回答	28	3.9%
N(計)	718	

4.就労先が求めるスキルや人物像を見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	10	1.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	35	4.9%
2.対象者の状況により実施している	173	24.1%
3.基本的に実施している	475	66.2%
無回答	25	3.5%
N(計)	718	

5.就労先の物理的環境等を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	3	0.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	39	5.4%
2.対象者の状況により実施している	180	25.1%
3.基本的に実施している	470	65.5%
無回答	26	3.6%
N(計)	718	

6.就労先の慣れからくる配慮や関係の変化を見据える

	実数	割合
0.あまり必要ない	9	1.3%
1.実施していないが必要だと気づいた	67	9.3%
2.対象者の状況により実施している	238	33.1%
3.基本的に実施している	375	52.2%
無回答	29	4.0%
N(計)	718	

[C1. 地域・自治体の状態の見立て]

具体的な、福祉サービス等の社会資源の把握は実施しているという回答が多かったたが、インフォーマルな支援や人材の偏在等の実施は少なかった。

自由回答では、質問項目に加えて「指定管理の市町村の障害者の実態、障害福祉計画、就労支援施策」が得られた。

1.地域(ネット上を含む)のインフォーマルな支援を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	22	3.1%
1.実施していないが必要だと気づいた	124	17.3%
2.対象者の状況により実施している	293	40.8%
3.基本的に実施している	247	34.4%
無回答	32	4.5%
N(計)	718	

2.地域の障害や多様性の受け入れ具合を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	36	5.0%
1.実施していないが必要だと気づいた	155	21.6%
2.対象者の状況により実施している	287	40.0%
3.基本的に実施している	203	28.3%
無回答	37	5.2%
N(計)	718	

3.地域の福祉サービスを含む就労への考え方の傾向を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	32	4.5%
1.実施していないが必要だと気づいた	129	18.0%
2.対象者の状況により実施している	251	35.0%
3.基本的に実施している	269	37.5%
無回答	37	5.2%
N(計)	718	

4.地域の就労先の量や就労条件の傾向を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	17	2.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	97	13.5%
2.対象者の状況により実施している	215	29.9%
3.基本的に実施している	354	49.3%
無回答	35	4.9%
N(計)	718	

5.地域の福祉サービス等の社会資源を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	5	0.7%
1.実施していないが必要だと気づいた	51	7.1%
2.対象者の状況により実施している	216	30.1%

3.基本的に実施している	415	57.8%
無回答	31	4.3%
N(計)	718	

6.自治体の制度の運用の傾向を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	20	2.8%
1.実施していないが必要だと気づいた	115	16.0%
2.対象者の状況により実施している	252	35.1%
3.基本的に実施している	299	41.6%
無回答	32	4.5%
N(計)	718	

7.支援に必要な情報や人材育成の機会の偏在による支援関係者の力量の地域差を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	57	7.9%
1.実施していないが必要だと気づいた	180	25.1%
2.対象者の状況により実施している	228	31.8%
3.基本的に実施している	205	28.6%
無回答	48	6.7%
N(計)	718	

3) -2 各レベル内・レベル間のかみ合わせ具合の見立て

[D1. 本人と家族のかみ合わせの見立て]

基本的に/状況により実施している割合が多かった。

自由回答では、質問項目に加えて「本人が家族に対してどのような思いを持っているか」が得られた。

1.家族の関りが本人の成長や自立を後押ししているか見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	9	1.3%
1.実施していないが必要だと気づいた	32	4.5%
2.対象者の状況により実施している	346	48.2%
3.基本的に実施している	308	42.9%
無回答	23	3.2%
N(計)	718	

2.家族との関係が症状に影響している場合に他機関の支援の必要性を見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	3	0.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	32	4.5%
2.対象者の状況により実施している	323	45.0%
3.基本的に実施している	338	47.1%
無回答	22	3.1%
N(計)	718	

[E1. 本人と支援者のかみ合わせの見立て]

基本的に実施している回答が6割以上であった。

自由回答では、質問項目に加えて「様子を把握しながら時には背中を押して歩調を早める」が得られた。

1.本人の支援者への対応から関係性が育ってきているか見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	3	0.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	28	3.9%
2.対象者の状況により実施している	198	27.6%
3.基本的に実施している	466	64.9%
無回答	23	3.2%
N(計)	718	

2.本人の歩調に支援者の歩調が無理なく合っているか吟味する

	実数	割合
0.あまり必要ない	4	0.6%
1.実施していないが必要だと気づいた	27	3.8%
2.対象者の状況により実施している	220	30.6%
3.基本的に実施している	444	61.8%
無回答	23	3.2%
N(計)	718	

3.支援者の対応範囲を超えた事柄について他者の支援の必要性を見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	7	1.0%
1.実施していないが必要だと気づいた	31	4.3%
2.対象者の状況により実施している	230	32.0%
3.基本的に実施している	425	59.2%
無回答	25	3.5%
N(計)	718	

[E2. 本人と就労先のかみ合わせの見立て]

具体的な労働条件や配慮については実施している回答が多かったが、本人の心身の波への配慮は状況による場合が多かった。

自由回答では、質問項目に加える内容は得られなかつた。

1.本人と就労先が就労の目的を共有できているか見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	5	0.7%
1.実施していないが必要だと気づいた	40	5.6%

2.対象者の状況により実施している	214	29.8%
3.基本的に実施している	431	60.0%
無回答	28	3.9%
N(計)	718	

2.障害開示・通勤条件・労働条件・仕事の内容が本人の希望と合致するか見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	2	0.3%
1.実施していないが必要だと気づいた	13	1.8%
2.対象者の状況により実施している	103	14.3%
3.基本的に実施している	576	80.2%
無回答	24	3.3%
N(計)	718	

3.本人の能力や希望に応じてキャリアアップや昇給がなされているか

	実数	割合
0.あまり必要ない	20	2.8%
1.実施していないが必要だと気づいた	84	11.7%
2.対象者の状況により実施している	332	46.2%
3.基本的に実施している	247	34.4%
無回答	35	4.9%
N(計)	718	

4.希望する就労先で本人の強みを活かすために強化したり身に着けることが必要なスキルを見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	6	0.8%
1.実施していないが必要だと気づいた	48	6.7%
2.対象者の状況により実施している	235	32.7%
3.基本的に実施している	401	55.8%
無回答	28	3.9%
N(計)	718	

5.本人が希望する配慮と就労先の配慮が合致しているか見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	3	0.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	25	3.5%
2.対象者の状況により実施している	142	19.8%
3.基本的に実施している	523	72.8%
無回答	25	3.5%
N(計)	718	

6.本人の心身の波に合わせて就労先が配慮を柔軟に変更できそうか見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	10	1.4%
1.実施していないが必要だと気づいた	39	5.4%
2.対象者の状況により実施している	244	34.0%
3.基本的に実施している	398	55.4%
無回答	27	3.8%
N(計)	718	

7.本人が自分の心身の波への配慮を就労先と交渉できるか見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	8	1.1%
1.実施していないが必要だと気づいた	48	6.7%
2.対象者の状況により実施している	232	32.3%
3.基本的に実施している	401	55.8%
無回答	29	4.0%
N(計)	718	

8.就労環境が変化した場合に本人への影響を最小にする方法を見立てる

	実数	割合
0.あまり必要ない	8	1.1%
1.実施していないが必要だと気づいた	59	8.2%
2.対象者の状況により実施している	276	38.4%
3.基本的に実施している	344	47.9%
無回答	31	4.3%
N(計)	718	

[F1.本人と地域・自治体のかみ合わせの見立て]

「実施していないが必要だと気づいた」という回答が多かった。

自由回答では、質問項目に加える内容は得られなかった。

1.生活や医療に関する本人のニーズと地域の支援者と合致しているか見極める

	実数	割合
0.あまり必要ない	16	2.2%
1.実施していないが必要だと気づいた	86	12.0%
2.対象者の状況により実施している	342	47.6%
3.基本的に実施している	232	32.3%
無回答	42	5.8%
N(計)	718	

2.本人の希望する交流が身近にあるか把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	27	3.8%
1.実施していないが必要だと気づいた	109	15.2%
2.対象者の状況により実施している	383	53.3%
3.基本的に実施している	159	22.1%
無回答	40	5.6%
N(計)	718	

3.活用している制度が本人のプラスになっているか吟味する

	実数	割合
0.あまり必要ない	12	1.7%
1.実施していないが必要だと気づいた	97	13.5%
2.対象者の状況により実施している	340	47.4%
3.基本的に実施している	233	32.5%
無回答	36	5.0%
N(計)	718	

[見立ての手段：どのように]

対話や対応での把握は多かったが、ツールの利用や内省は「実施していないが必要だと気づいた」という回答が多かった。

自由回答では、質問項目に加えて「雑談」が得られた。

1.本人や関係者との対話を深める中で把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	1	0.1%
1.実施していないが必要だと気づいた	11	1.5%
2.対象者の状況により実施している	104	14.5%
3.基本的に実施している	577	80.4%
無回答	25	3.5%
N(計)	718	

2.障害特性や年代に合わせて対応する中で状況把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	6	0.8%
1.実施していないが必要だと気づいた	18	2.5%
2.対象者の状況により実施している	193	26.9%
3.基本的に実施している	476	66.3%
無回答	25	3.5%
N(計)	718	

3.支援の中で五感を駆使して本人・就労先・地域の状況を把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	31	4.3%
1.実施していないが必要だと気づいた	66	9.2%
2.対象者の状況により実施している	231	32.2%
3.基本的に実施している	353	49.2%
無回答	37	5.2%
N(計)	718	

4.自作/既製のツールを参考にする

	実数	割合
0.あまり必要ない	55	7.7%
1.実施していないが必要だと気づいた	84	11.7%
2.対象者の状況により実施している	279	38.9%
3.基本的に実施している	256	35.7%
無回答	44	6.1%
N(計)	718	

5.支援者自身の内省から状況を俯瞰する

	実数	割合
0.あまり必要ない	26	3.6%
1.実施していないが必要だと気づいた	60	8.4%
2.対象者の状況により実施している	269	37.5%
3.基本的に実施している	320	44.6%
無回答	43	6.0%
N(計)	718	

6.相手の立場に身を置いて情報把握する

	実数	割合
0.あまり必要ない	7	1.0%
1.実施していないが必要だと気づいた	45	6.3%
2.対象者の状況により実施している	219	30.5%
3.基本的に実施している	412	57.4%
無回答	35	4.9%
N(計)	718	

(4)前述のアセスメントスキルのうち、スキルアップが必要と思う項目

[A1.本人の見立て]

	実数	
N	718	割合
1 本人が自分らしく生きられる仕事を本人と探る	436	60.7%
2 本人の興味関心に即した仕事を本人と探る	381	53.1%
3 働く意味や喜びを本人と探る	432	60.2%
4 人生や就労でつまずいた要因を本人と検討する	415	57.8%
5 本人の生命に関わる経験を確実に把握する	276	38.4%
6 本人の生活スキルの習熟度を見極める	381	53.1%
7 就労定着を見据えて本人の就業のスキルを見立てる	432	60.2%
8 経過の中で本人の変化と要因を本人と探る	364	50.7%
9 本人が自己理解のどの段階にいるか本人と探る	475	66.2%
10 本人が心身の波を察知し自己や環境を調整するどの段階にいるか本人と探る	432	60.2%

[A2.家族の状態の見立て]

	実数	
N	718	割合
1.家族員個々の障害の受け止め方を見立てる	426	59.3%
2.本人の年齢や症状の特性に応じて親の関与の程度を把握する	416	57.9%
3.本人の症状の要因や対処方法に関する家族の経験知を把握する	394	54.9%

[B1.支援者自身の見立て]

	実数	
N	718	割合
1.本人が支援者と安心して接しているか自己の対応方法を吟味する	435	60.6%
2.将来を見通して本人の可能性を引き出そうとしているか自己吟味する	454	63.2%
3.本人の自己決定と実行を妨げていないか自己の支援を振り返る	454	63.2%
4.ツールなど客観的な指標と本人の主觀を突合して総体的に見立てようとしているか点検する	407	56.7%

5.関係者の意見も併せて多方面から本人を理解しようとしているか自己吟味する	425	59.2%
6.支援者自身の経験や価値観が支援の妨げとなっていないか俯瞰する	456	63.5%

[B2. 就労先の状態の見立て]

実数		
	N	割合
1.就労先が障害者雇用をD&Iによる経営の課題として考えているか	303	42.2%
2.就労先の個々の障害の特徴への理解を見立ててる	460	64.1%
3.就労先の人事異動の周期など人との環境の変化の頻度を把握する	344	47.9%
4.就労先が求めるスキルや人物像を見立ててる	407	56.7%
5.就労先の物理的環境等を把握する	355	49.4%
6.就労先の慣れからくる配慮や関係の変化を見据える	415	57.8%

[C1. 地域・自治体の状態の見立て]

実数		
	N	割合
1.地域(ネット上を含む)のインフォーマルな支援を把握する	386	53.8%
2.地域の障害や多様性の受け入れ具合を把握する	364	50.7%
3.地域の福祉サービスを含む就労への考え方の傾向を把握する	389	54.2%
4.地域の就労先の量や就労条件の傾向を把握する	388	54.0%
5.地域の福祉サービス等の社会資源を把握する	417	58.1%
6.自治体の制度の運用の傾向を把握する	365	50.8%
7.支援に必要な情報や人材育成の機会の偏在による支援関係者の力量の地域差を把握する	334	46.5%

[D1. 本人と家族のかみ合わせの見立て]

実数		
	N	割合
1.家族の関りが本人の成長や自立を後押ししているか見立ててる	408	56.8%
2.家族との関係が症状に影響している場合に他機関の支援の必要性を見立ててる	480	66.9%

[E1. 本人と支援者のかみ合わせの見立て]

実数		
	N	割合
1.本人の支援者への対応から関係性が育ってきているか見立ててる	379	52.8%
2.本人の歩調に支援者の歩調が無理なく合っているか吟味する	430	59.9%

3.支援者の対応範囲を超えた事柄について他者の支援の必要性を見立てる	463	64.5%
------------------------------------	-----	-------

[E2. 本人と就労先のかみ合わせの見立て]

実数		
	N	割合
1.本人と就労先が就労の目的を共有できているか見立てる	402	56.0%
2.障害開示・通勤条件・労働条件・仕事の内容が本人の希望と合致するか見立てる	371	51.7%
3.本人の能力や希望に応じてキャリアアップや昇給がなされているか	357	49.7%
4.希望する就労先で本人の強みを活かすために強化したり身に着けることが必要なスキルを見立てる	389	54.2%
5.本人が希望する配慮と就労先の配慮が合致しているか見立てる	401	55.8%
6.本人の心身の波に合わせて就労先が配慮を柔軟に変更できそうか見立てる	397	55.3%
7.本人が自分の心身の波への配慮を就労先と交渉できるか見立てる	393	54.7%
8.就労環境が変化した場合に本人への影響を最小にする方法を見立てる	405	56.4%

[F1. 本人と地域・自治体のかみ合わせの見立て]

実数		
	N	割合
1.本人と就労先が就労の目的を共有できているか見立てる	400	55.7%
2.障害開示・通勤条件・労働条件・仕事の内容が本人の希望と合致するか見立てる	379	52.8%
3.本人の能力や希望に応じてキャリアアップや昇給がなされているか	382	53.2%

[見立ての手段：どのように]

実数		
	N	割合
1.本人や関係者との対話を深める中で把握する	423	58.9%
2.障害特性や年代に合わせて対応する中で状況把握する	380	52.9%
3.支援の中で五感を駆使して本人・就労先・地域の状況を把握する	363	50.6%
4.自作/既製のツールを参考にする	342	47.6%
5.支援者自身の内省から状況を俯瞰する	341	47.5%
6.相手の立場に身を置いて情報把握する	411	57.2%